



報 寺 誓 重

第5号 平成19年10月

お彼岸が過ぎ、十月頃になると真宗各寺院では報恩講ほうおんこうが始まります。

報恩講とは宗祖親鸞しんらん聖人しょうにん（一一七三〜一二六二）の恩徳を偲び、聖人を通して仏教の教えに出合い、自分の生き方を見つめなおす法要で、私たちにとつてもっとも大切なご法縁といえます。

親鸞聖人のご命日は旧暦の十一月二十八日です。

本願寺では、これを太陽暦に改めて一月十六日とし、一月九日から十六日までを御正忌報恩講ごしょうきほうおんこうとしてお勤めいたします

一般寺院ではお取り越しと

いい、本山より早めにお勤めします。それは一人でも多く本山の御正忌報恩講のお参りできるようにとの配慮でもあります

浄土真宗本願寺派は大阪で八五〇、全国では一万余りもの寺院が有り、そのほとんどでこの時期に報恩講がお勤めされます。このように私たちには親鸞聖人のお徳や仏法に会わせて頂く縁に恵まれているといえます。

是非この法縁を無駄にしないよう、機会があれば一度でも多く参詣されますことを念願いたします。



法座の御案内

重誓寺では毎月法座が勤まります。
椅子席もありますので、どうぞ皆さま
ご一緒にお勤め、お聴聞いたしましょう。

毎月 昼二時、夜七時より

・十月二十日

常例法座

講師 未定

・十一月二十日、二十一日

報恩講

勤行 昼 正信偈 夜 御伝鈔、十二礼
講師 野口 宗英 師

・十二月二十日

常例法座

講師 中西 昌弘 師

以降は追って御案内いたします。

常例法座の勤行は、

昼 阿弥陀経 夜 正信偈 です。

法座にお参りいた
だく時は、念珠、
聖典（経本）を
お持ちの上、平服
でお越し下さい。
聖典をお持ちでな
い方は、お貸し、
お分けいたします
ので、お申し出
ください。



浄土真宗の基礎知識

浄土真宗におけるお仏壇とは、阿弥陀如来あみだにょらいの光り輝く極楽浄土を表現したものであり、私たちは仏さまに日々感謝のお礼を申すためにお仏壇にお参りします。

ですから亡くなった方がいないからとか、本家にあるからという理由でお仏壇が無いのは間違いであります。

各ご家庭の仏壇を「お内仏ないぶつ」とも言い、身近に置くことで、いつでもすぐにお参りできるようにしたものであります。

浄土真宗のお仏壇は、真ん中に本尊として阿弥陀如来の絵像



(掛け軸) または木像を安置し、右に親鸞聖人または十字名号きみょうじんじっぽう (帰命尽十方無碍光如来むげこうにょらい)、左に蓮如上人または九字名号なもふかしぎこうにょらい (南無不可思議光如来) の掛け軸を安置します。

先祖の法ほうみょう名は過去帳に記入し、本来位牌は用いませぬ。

礼拝の対象はあくまで阿弥陀さまであり、阿弥陀さまにお参りすることは、浄土に還って行かれた方々にお参りすることでもあります。

お守りやお札をお仏壇に置くことは、阿弥陀如来の救いのはたらきを疑うことになりませんので避けましょう。

正しい荘厳しょうごんは、仏さまの教えを正しく伝えることであり、日々お給仕するその姿は必ず子や孫にも伝わって行くこととなります。



先日、娘（小学一年）の乳歯が抜
けました。もちろん誰にも訪れる
ことですが、その当然と想っている出来
事に改めて生命の神秘を感じました。
乳歯が永久歯に生え替わるといふのは、
幼児の小さな骨格から大人の大きな骨格
に対応するための準備かと思えます。
その時期になると、乳歯は自分の使命を
全うし、次の永久歯が生えやすいように
その準備を始めるのです。
歯茎にしっかりと下ろしていたその根を
永久歯の邪魔にならないよう、自ら溶か
し、自ら抜けやすいようにしているのだ
そうです。
胎児が母体で育つ時、一つの固まりであ
った手のひらに一本一本指が分かれてく
るのも、同じように間の細胞が自ら死滅
して出来てくるのだそうです。



人はそんなこと考えもせず
に生きていますが、それぞ
れの細胞は自分の生き方を
しっかりとそのDNAに記
憶し、当然のように実行し
ているのです。

毎日、当然のように過ごし
ている私たちですが、何の
ためにこの世に生まれて来
たのか。後の
世に何を残し
て行かなけれ
ばならないの
か、改めて考
えさせられま
した。

浄土真宗 本願寺派(西本願寺) じゅうせいじ 重誓寺

大阪市旭区中宮2-4-19 電話・FAX 06(6951)0090

<http://park6.wakwak.com/juseiji/>